

大阪日々新聞

二百七十六号

飾磨縣下中村に住る田村龜吉

成十二月十五日士族二名此家

止宿す又商人一人隣の

間止宿せり若干の

命を主の預け安心

して則り夜半及び

士族のねがふ君の傍か

しめんと云くれば情ある者と

難と与へんばしめり龜吉の

息の隣家小あそび夜あけて

飯り商人の寐床

是幸いとや

さりたる父の

かくもあそ

の短刀持て去のび来り我子とつゆあそび

喉を只一刀かばし通し片手の陰囊を

つりしあそびの聲をもついで

あつてがり士族此音あやうすを

立用よ朝龜吉を縛して

其區の會議所へ送らる

柳櫻記

旅籠屋龜吉



女愛

川傳

福